

平成19年7月5日

## 米国自転車市場レポート2007年7月号

(GTG Gluskin Townley Group が財団法人自転車産業振興協会向けに作成)

### 米国自転車市場情報

#### 米国自転車市場全体の規模：2006年最新情報及び2007年の予測

2007年4月のレポートで小売金額における米国自転車市場全体の規模を明らかにした。表1は最近発表された全米スポーツ用品協会「スポーツ用品市場」の報告を基にした最新情報である。

2006年の総小売自転車市場は、予測値の58億ドルから若干多い59億ドルへと修正された。全体への影響は僅かであるが、最も大きな変化は、自転車及び関連製品の区分で元々の予測値49億ドルから最終的に52億ドルへと増加したことである。しかし、この増加はサイクリングウェアの区分の予測値が8億1,900万ドルから6億6,100万ドルへ減少したことにより一部相殺されている。

表1 米国自転車産業 小売金額の推定(百万米ドル) 2003-2006最終値 2007予測

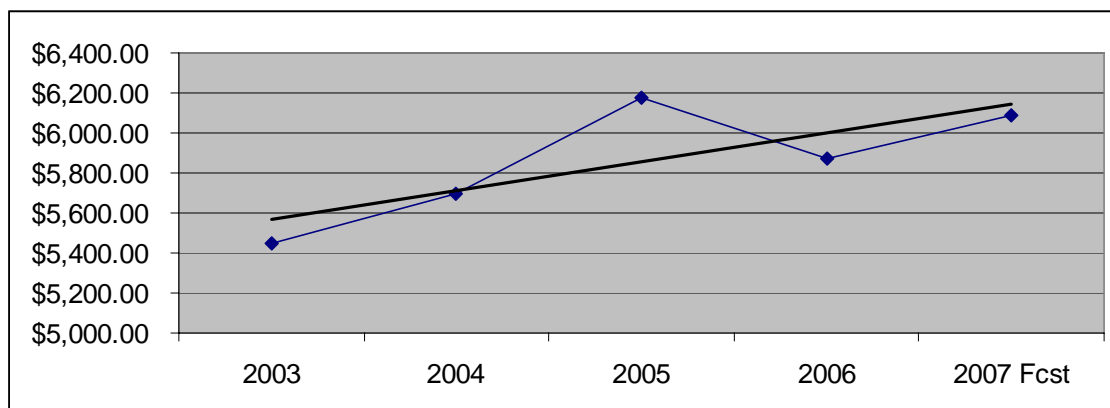
	2003	2004	2005	2006	2007 予測値	2006/2007 変化
サイクリング ウェア	\$672.9	\$757.6	\$784.1	\$660.0	\$644.00	-\$16.0 -2.4%
サイクリング シューズ	\$42.0	\$42.5	\$49.5	\$50.5	\$51.0	+\$0.5 +0.9%
自転車及び 関連製品	\$4,736.0	\$4,897.7	\$5,342.9	\$5,160.8	\$5,393.0	+\$232.2 +4.5%
計:	\$5,450.9	\$5,697.8	\$6,176.5	\$5,872.2	\$6,088.0	+\$215.8 +3.7%

出典：全米スポーツ用品協会 スポーツ用品市場 2007

図Aは小売金額における米国自転車市場の全体規模をグラフにより示したものである。2003年から2006年そして2007年予測値までの市場拡大の上昇方向を示すため、傾向線を加えてある。

過去4年間米国自転車市場の全体規模は拡大したが、米国のインフレ率やGDP成長率には追いついていない。

図A 米国自転車産業 小売金額の推定(百万米ドル) 2003-2006 最終値 2007 予測



出典：全米スポーツ用品協会 スポーツ用品市場 2007

## 輸 入

表2は2007年年初4ヶ月間の米国自転車輸入の最新状況と2006年の同じ時期との比較を示したものである。

- ・ 19インチ以下の自転車は台数、総金額、及び平均単価とも上昇。
- ・ 20インチの自転車は台数が上昇、総金額は減少、これにより平均単価は下落。
- ・ 24インチは引き続き台数、総金額とも減少。
- ・ 27インチ及びロードバイク 700c は台数・総金額が増加したものの平均単価は下落。
- ・ 26インチの自転車は台数、総金額、平均単価とも全て増加。

表2 年初4ヶ月間の米国自転車輸入 2007年及び2006年の比較

1～4月 HS 関税番号	2007		2006		変化	
	台数	FOB US\$	台数	FOB US\$	台数	FOB US\$
1510 19 inch 以下	1,705,222	40,755,143	1,593,609	34,732,249	+111,613	+6,022,894
1520 20 inch	1,619,056	51,295,613	1,481,020	51,980,799	+138,036	-685,186
1550 24 inch	421,181	25,152,199	600,581	29,282,638	-179,400	-4,130,439
2500 27 inch& 700c	355,957	87,095,938	237,777	69,651,010	+118,180	+17,444,928
3500 26 inch	1,729,723	143,106,795	1,612,146	126,714,280	+117,577	+16,392,515
その他	68,834	5,206,630	50,306	3,932,033	+18,528	+1,274,597
計	5,899,973	352,612,318	5,575,439	316,293,009	+324,534	+36,319,309
対前年比%					+5.8%	+11.5%
平均単価 US\$		59.77		56.73		
対前年比 %					+3.04%	+5.4%

出典：米国商務省

年初4ヶ月間の米国自転車輸入の増加は、引き続き通常範囲内の在庫補充であると思われる。全体の輸入は、台数で6%弱、FOB価格で11%以上増加し、平均単価の5%強の増加につながった。

表3は過去四年間の年初4ヶ月間の自転車輸入状況を示す。2007年は引き続き近年の推移の線上にある。前月のレポートで述べたとおり、平均単価が引き続き上昇しており、総金額の増加をもたらしている。年初4ヶ月の時点では、2007年は過去8年間の単純平均輸入を8%上回り、過去8年間で3番目に位置づけられる。

表3 年初4ヶ月間の米国自転車輸入の推移 2004年～2007年

年	台数	FOB 価格	平均輸入単価
2007	5,899,973	\$352,612,318	\$59.77
2006	5,575,439	\$316,293,033	\$56.73
2005	6,152,358	\$341,344,074	\$55.48
2004	4,605,666	\$231,657,384	\$50.30

出典：米国商務省

米国へは 2007 年年初 4 ヶ月間に 27 カ国から自転車が輸入されているが、数年間にわたり主要供給元は変わっていない。95.8%が中国からで、3.82%が台湾からである。全輸入の 99.62%がこれら二カ国からであり、他の 25 カ国は米国の全輸入の 0.38%を分かち合っている。供給元の国の中で、日本は 10 位、517 台、FOB 価格 \$79,671 で平均単価は \$154.10 である。

## 米国の輸出

表 4 は 2007 年年初 4 ヶ月間の最新の米国自転車輸出状況を示す。

表 4 2007 年、年初 4 ヶ月間の米国の自転車輸出

HS	国内			海外			計		
	台数	FOB US\$	平均単価	台数	FOB US\$	平均単価	台数	FOB US\$	平均単価
1070	7,504	\$1,567,922	\$208.94	2,852	\$594,977	\$208.62	10,356	\$2,162,899	\$208.85
2600	19,734	\$17,392,388	\$881.34	22,461	\$6,966,106	\$310.14	42,195	\$24,358,494	\$577.28
6000	30,360	\$11,405,722	\$375.68	1,026	\$677,425	\$660.26	31,386	\$12,083,147	\$384.99
計	57,598	\$30,366,032	\$527.21	26,339	\$8,238,508	\$312.79	83,937	\$38,604,540	\$459.92

1070 : 25 インチ以下、2600 : 25 インチ以上、6000 : 車輪径が示されていないもの

出典 : 米国商務省

米国の自転車業界は、2007 年の年初 4 ヶ月間に日本向けに 4,220 台の自転車を輸出し、FOB 価格は \$2,702,502、平均単価は \$640.40、米国からの全輸出の 5.03%を占めている。

## 流通経路

最近、米国自転車小売協会 (NBD A) は米国自転車専門小売店レポート 2006 年版を発行した。2006 年の初めには米国には 4,600 の自転車小売店、自転車店があった。以下は NBD A 2006 レポートから抽出した自転車専門店の輪郭である。

2006年 米国自転車専門店の輪郭

	平均
年間総売上高	\$729,063
面積(平方フィート)当り売上高	\$156.52
売場面積(平方フィート)	4,658
	%
分野別の売上比率:	
>>自転車新車	43%
>>部品 & 付属品	26%
>>自転車修理	17%
取扱自転車ブランド数:	
>>4 以上	75%
>>5 以上	59%
>>6 以上	41%
コンピューター販売管理導入率:	63%

専門店向け出荷状況 自転車製品供給業者協会 (BPSA) による

- ・ 自転車専門店向けの自転車出荷金額は 2007 年 4 月に 5.6%下落し、6,220 万ドルとなった。
- ・ このことにより、2007 年年初 4 ヶ月間の総出荷金額も 2006 年の同時期の 2 億 4,300 万ドルから 3.8%減少、2 億 3,380 万ドルとなった。
- ・ 自転車製品区分毎に出荷金額を見ると、
  - ロードバイク 700c は 2007 年 4 月に 14%減少した。このことにより年初 4 ヶ月の全体が 5%減少することになった。
  - フロントのみサスペンション付のマウンテンバイクもやはり 5%減少した。
  - 前後サスペンション付マウンテンバイクは 8.4%増加した。
- ・ 2007 年 4 月は 2006 年 4 月に比べ、自転車専門店向けの全ての車種の総出荷台数が 8%減少し、年初 4 ヶ月間では、2007 年は 2006 年同時期に比べ 9%減少した。
- ・ 2007 年 4 月は部品・付属品の販売金額は 2006 年 4 月に比べ 9.4%減少し、4,090 万ドルから 3,700 万ドルとなった。2007 年の年初 4 ヶ月間では部品・付属品の販売金額は 2006 年の同時期に比べ、1.6%減少した。

総括すると、2007 年年初 4 ヶ月間の自転車輸入は、2006 年の同時期に比べ、台数で 6%増

加、米国の自転車専門店向けの出荷は9%減少した。

ニュージャージー州議会はフロントクイックリリース機構付の自転車の販売を禁止する法律の制定を検討している。ニュージャージー州議会（下院）は「クイックリリース付自転車の販売を禁止する」法案番号 2686 を賛成 77 反対 3 で通過させた。

この法案の条文は大変わかりにくい。しかし、自転車製品供給業者協会（BPSA）と米国自転車小売協会（NBDA）によると、現状では法案には 20 インチ以上の自転車を対象とし、大人用の自転車も含まれている。条文は更に、ニュージャージー州内では、車輪の脱落を常に自動的に防ぐための副次的維持機構を備えない限り、クイックリリース機構付の自転車の販売は禁止されるとしている。BPSAによれば、このような維持機構は購入することはできない、とのことである。

この法案はニュージャージー州上院に今年の秋ごろに上程される。その時にBPSAとNBDAは、通常ハブからのクイックリリースが装着されることのない子供車を対象とするよう条文が修正されるか、或いは完全に廃案になるか、を望んでいる。

## **新製品**

今月は高級品市場に新製品が多いようである。

- ・カーボンファイバー製リムへのブレーキ操作には問題があったが、スイストップ社はカーボン製リムを簡単に止められるブレーキパッドを開発した。
- ・チューブレスリムが注目を集めているようだ。そして、チューブレス技術は米国では今のところロード車市場だけで見られるようで、マウンテンバイク市場では人気を集めていない。
- ・トレック社とスペシャライズド社はともにロードバイク向けの前後サスペンションを改良中である。

## **販売好調な品目**

トレック、ラレー、ジャイアントの各社製品に搭載されたシマノのコースター機能は引き続き今シーズン最も好調な製品であるようだ。引き続き話題になっており、またシマノが立ち上げたPRキャンペーンは間違いなく製品の認知度と関心を高めている。

## **アメリカの消費者**

アメリカの市場は複合的で、多くの世代を抱え込んでおり、日本市場と似通っている。ベビーブーマー、すなわち 1946 年から 1964 年の間に生まれた 7,690 万人のアメリカ人は、

今でも米国において最も強い経済的影響力を持っており、自転車産業にとって大きな可能性を持った市場である。

何十年間にもわたり、自転車専門店、即ち自転車店は、非常に数多くいるベビーブーマー、特に女性と偶にしか乗らないあまり熱心でないサイクリストたちを無視してきた。シマノは今こそこれを変えるときだと考え、同社のコースター機能に対するコンセプトは直接米国のベビーブーマーを対象としている。理由のいくつかをここにあげてみる。

### ズーマーの新しい動き

ショルン・フリーマンの2月25日付ワシントンポスト紙記事によると、1946年から1964年の間に生まれた7,690万人の米国人であるベビーブーマー達は、環境に大いに関心を持つようになってきている。

ベビーブーマー達は何十年間にもわたり画一的であったが、地球温暖化に対応し購買習慣を変え始めている。そして、米国市場を舗装路から緑の道へと変えかけようとしている。

この記事では、環境と関連した自慢・自負の時代を予測しているクルマ購入心理の専門家ダニエル・ゴレル氏が引用されている。「クルマの購入は、普通90%はあなた自身に関連がある」ゴレル氏の発言が引用されている。「それは地球を救うということではない。あなたが注意をしており真面目であるという、あなた自身そしてあなたの価値に関する意思表示を行う、ということだ」。

ベビーブーマー達は、自動車会社がこの潮目の変化を生かすために登場させている燃料効率がよく環境にやさしい車両を購入することにより、自らの意思表示を行うことができる。この記事では、2007年にトヨタは、2006年から50%増の15万台のプリウスハイブリッドカーの販売を見込んでいると指摘している。

「俺を見ろ、俺は特別な奴だ」というのが、ゴレル氏やその他の消費者専門家の述べていることのような。そして、ベビーブーマー達が環境に対する関与を一層強めるようになるということは、熱帯雨林や鯨を保護することとは違い、天然資源の使用、エネルギー消費、脱エネルギー依存、そして地球温暖化に対する、もっと大きな社会的責任を伴った取り組みを行うということである。彼等の多くは、環境適合性の高い新しい車両を作り出すことに対し、自らの新たな社会的責任を、目に見える形で示していこうとしている。そして、彼らはそういった環境適合性の高い新しい車両に対しては、喜んで20%以上支出するし、そして多分、新しい自転車や電動自転車は彼等の社会的責任を示すもう一つの方法となるであろう。

この同じ記事によれば、アメリカ人は世界人口の5%を占めるが、クルマや小型トラックから排出される二酸化炭素の45%に責任を持っているということに、次第に気付き始めている。最近のギャロップ社のアンケート調査によれば、2006年には74%のアメリカ人が地球温暖化に対してよく理解していると答えたが、1992年にはそれは僅か53%であった。

自転車のビジネスを含んだ、アウトドア産業にとって特に関心をもたれるのは、我々がズーマーと呼んでいる、人生の楽しみと長生きを過激なまでに追及しているベビーブーマー達である。デイビッド・J・デムコ博士は、この新語を作り出した人だが、氏によればズーマーというのは、

- 一次的（避けられない）老いと二次的（逆転できる）老いの違いを理解し、
- 毎日エクササイズをし、
- 日々の栄養とカロリーの必要量を計算し、
- 社会的支援制度を展開させ、
- 自身の概念を肯定的に楽しみ、また、人生を最高に充実させるという熱情を楽しみ、
- 冒険的な暮らしをするのに必要なものを勝ち取る

人たちである。

これらのことの暗示することは、現在43歳から61歳のベビーブーマーの世代は、教育水準が高く、旅行も多くし、より豊かで、より健康で、自立度が高く、活動的であることにより高い関心を持ち、他のどの世代のアメリカ人よりかも冒険好きである、ということである。環境問題に関し何十年間にもわたり画一的であったが、彼らは地球温暖化に対応し購買習慣を変え始め、「緑」の方向へ舵を切っている。

ズーマーの新しい動きは、自らの新しいハイブリッド、代替燃料、電気自動車、SUV或いは小型トラックなどの補充としての、自転車又は電動自転車であるかもしれない。

シマノ社と同社の代理店IDEO社の人たちは、この市場潜在性をきっかけととらえ、同社の自転車事業を、新しいコースター事業計画を伴って、ベビーブーマー・ズーマー市場の潜在性のもとへと、入り込ませようとしているのである。

この春（もしこの国の一部で春がまだ来ていないのであれば）そして初夏にかけて、15の自転車に友好的な都市部市場で展開されている、ジャイアント、ラレー、トレックの各ブランドを含むコースター機能付自転車に注目しよう。これは自転車業界が初めて、意義ある広告宣伝費用投資について、自転車に乗らない大部分の消費者、特にベビーブーマー達を自転車店に誘導するため、彼等に焦点をあてた取り組みである。



自転車専門店の潜在性は明らかである。しかし全てのアウトドア産業は、より冒険的な生活様式、或いはアウトドアよりそうすることが良いならばそのような生活様式、を求めている、ベビーブーマー・ズーマーを利用することができるのである。

(国際業務部)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。